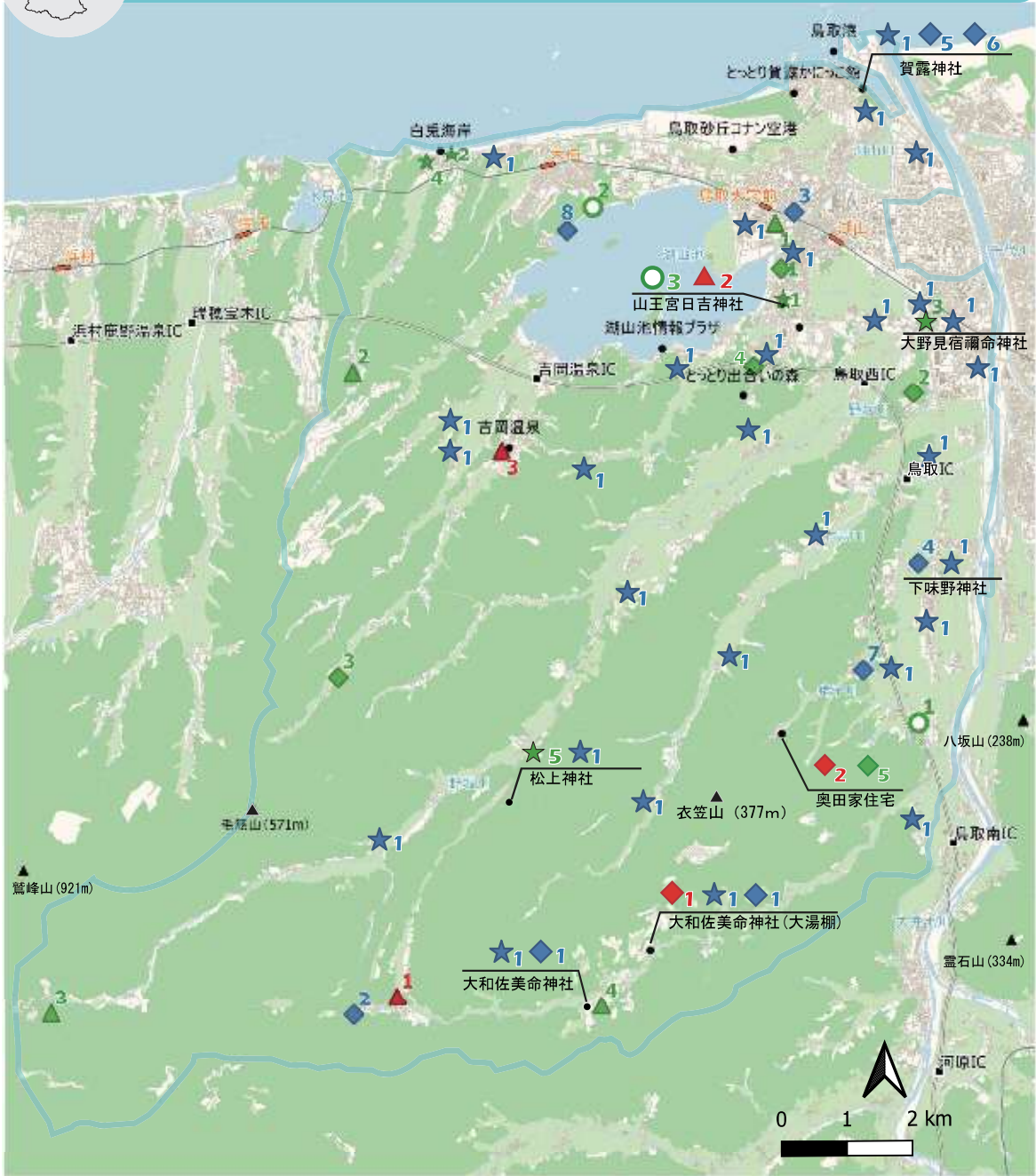




④ 湖山池周辺地域



● 湖山池周辺地域の指定・登録文化財分布図

指定・登録文化財のリストはP145参照。



● 衣笠山 (377m)



● 毛無山 (571m)

【地 勢】

千代川西岸地域にあたるこの地域は因幡国の旧高草郡域と概ね一致します。東側は千代川、西側は旧気多郡との境界の毛無山(571m)から日本海に向かって延びる尾根、南は旧八頭郡である現在の鳥取市河原町で、1,000m級の中国山地の一部である三国山(1,252m)から北東に延びる尾根筋で区切られています。沿岸部は千代川により運搬された土砂が堆積した砂丘群が発達し、鳥取港のある賀露から白兔海岸まで砂丘地が広がっています。現在は開発が進んでいますが、湖山池北側と日本海沿岸部には鳥取砂丘の一部である湖山砂丘や末恒砂丘が形成されました。また、発達した砂丘の後背には、周囲17.5km、面積6.88km²の湖山池があり、「池」と名の付くものでは日本最大のものです。湖山池の南西部には鷲峰山(921m)や毛無山(571m)などの安山岩質溶岩の山地があります。その尾根は北東方向に延び、池岸や海岸部で急崖・断崖を形成しています。地域内を流れる砂見川・有富川・野坂川は、北東方向に流れ、本市を北流する千代川に注いでいます。

【歴 史】

この地域は、山陰地方における縄文土器の最初の発見があった湖山池の青島遺跡に代表されるように、布勢第1遺跡、桂見遺跡などの縄文遺跡が確認され、市域でも比較的早い時期から集落が形成され繁栄していたと考えられます。古代の因幡国高草郡は、地方豪族によって開墾され、湖山池周辺の岩吉遺跡や良田平田遺跡などでは、木簡や墨書土器・緑釉陶器りよくゆうとうきなどが出土しており、役所あるいは荘園に関する出先機関があったと推定されています。

室町時代には、因幡守護に任じられた山名氏が守護所を因幡国府から布勢天神山城へ移し、尼子氏、但馬山名氏との三つ巴の戦乱がはじまる戦国時代まで因幡国の政治的中心は高草郡でした。近世初頭、高草郡は亀井茲矩の統治下にあり、千代川の西岸の堤防工事、野坂川の付帯工事、大井手用水による灌漑かんがいによって高草郡は有数の穀倉地帯となりました。当時は、湖山池北の海岸沿いを伯耆往来が東西に、同じく南の湖岸を鹿野往来が通っており交通の要衝になっていました。賀露港は因幡国の主要港としての機能を持ち、鳥取藩政期には賀露明神(現賀露神社)境内の下に船手番所が、湖山川と千代川の合流地点には御茶屋が置かれていました。吉岡温泉は、鳥取藩主池田家の湯治場でもありました。

明治43年(1910)、当時は県内唯一の商業学校として東町に開校した鳥取県立商業学校が、昭和34年(1959)県立鳥取商業高等学校としてこの地域に移転しました。昭和27年(1952)に歩兵第40連隊の兵舎跡で開校した鳥取大学は、昭和41年(1966)に農学部と学芸学部が現在地に統合・移転し、学芸学部は教育学部に改称し、あわせて工学部も新設されました。その後も高校(鳥取西工業・鳥取農業高校)が新設されるなど文教地区の景観になり、昭和60年(1985)には、鳥取大学附属小・中学校が尚徳町から移転し、現在の文教地区の景観ができあがりました。

また昭和28年(1953)に、鳥取港(かつての賀露港)、昭和42年(1967)に鳥取空港(平成27年(2015)に愛称が鳥取砂丘コナン空港に変更)が開設され、鳥取の空と海の玄関口として重要な役割を担っています。

【湖山池周辺地域年表】

| 時代 | 年代 | できごと |
|------|---|---|
| 縄文時代 | 後期 | 青島遺跡、布勢第1遺跡等から縄文土器等が出土。 |
| 弥生時代 | 中期～後期 | 桂見遺跡、岩吉遺跡で水田が営まれる。 四隅突出型墳丘墓の西桂見墳丘墓が築かれる。 |
| 古墳時代 | 前期 中期 後期 | 桂見2号墳（方墳）、本高14号墳（前方後円墳）が築かれる。 栂間1号墳、里仁28号墳（いずれも前方後円墳）が築かれる。 布勢古墳、大熊段1号墳（いずれも前方後円墳）が築かれる。 |
| 古代 | 齊明4年(658) 天平勝宝8(756) 元慶2年(878) 文治元年(1186) | 因幡の水依評（大化2年(646)に因幡国に設置されたとされる行政区域）が二分、高草郡（8郷）が建てられた。 東大寺領莊園の高庭庄（国造難磐が墾田長）が成立。 賀露神社が「従四位上」の神階を授与される。 莊園時代。吉岡保が青蓮院門跡領に寄進、吉岡庄に。 |
| 中世 | 貞治2年(1363) 文正元年(1466) 大永2年(1522) 天文14年(1545) 天正元年(1573) 天正9年(1581) | 山名時氏が室町幕府より因幡守護に命じられる。 布勢天神山に因幡国府から守護所が移転。（因幡誌） 布勢仙林寺合戦。布勢天神山城を但馬山名氏が襲撃（山名豊治感状 中村文書） 守護大名山名一族の内紛により、但馬山名氏が久松山に砦を築く。 吉岡氏が吉岡湯村に吉岡城、湖山池畔に防己尾城を築城し高草郡西半を制する大勢力に。 羽柴軍侵攻時、防己尾城は羽柴軍の攻撃を退けた。 |
| 近世 | 慶長5年(1600) 慶長年間 承応2年(1653) 天明5年(1785) | 亀井茲矩は高草郡の2万4200石を加増され気多郡と合わせ3万8000石を領した。 池田氏が賀露港を、亀井氏は高草郡を灌漑する大井手用水の取水口として袋河原を欲し、領地交換した。 賀露に鳥取藩初代藩主池田光仲が御船手番所を設置。 船越作左衛門による湖山砂丘開拓開始。 |
| 近代 | 明治11年(1878) 明治29年(1896) 昭和12年(1937) | 郡区町村編成法により再度高草郡に。 高草郡と気多郡と合併して気高郡となる。 賀露村が鳥取市に編入。 |
| 現代 | 昭和28年(1953) 昭和60年(1985) 令和元年(2019) | 鳥取市に編入。 第40回国民体育大会「わかとり大会」の主会場となった布勢総合運動公園が整備される。 日本遺産「北前船寄港地」に賀露地区が構成文化財として追加される。 麒麟のまち圏内（鳥取市を含む1市6町）によるストーリーが、日本遺産に認定。 |

【湖山池周辺地域の指定文化財と登録文化財】

※令和3年3月31日時点で、地域内にある指定・登録文化財を掲載。

| | | No. | 指定種別 | 名称 | 所在地 | 資料編掲載頁 |
|-----|-----------------|-----|-------|---------------|-------|--------|
| もの | ◆ | 1 | 保護文化財 | 木造麒麟獅子頭 | 中砂見 | P17 |
| | | 2 | 保護文化財 | 絹本着色阿弥陀三尊来迎図 | 猪子 | P15 |
| | ▲ | 1 | 保護文化財 | 松上山三所大菩薩 | 岩坪 | P34 |
| | | 2 | 保護文化財 | 山王社地宝篋印塔 | 布勢 | P38 |
| | | 3 | 保護文化財 | 吉岡温泉記・吉岡温泉吟詠草 | 吉岡温泉町 | P37 |
| 凡 例 | ◆…鳥取県指定、▲…鳥取市指定 | | | | | |

| | | No. | 指定種別 | 名称 | 所在地 | 資料編掲載頁 | |
|---|-----|-----------------------------|---------|------------------|-------------|--------|--|
| 場 | ★ | 1 | 史跡 | 布勢古墳 | 布勢 | P6 | |
| | | 2 | 天然記念物 | ハマナス自生南限地帯 | 白兔 | P9 | |
| | | 3 | 天然記念物 | 大野見宿禰命神社社叢 | 徳尾 | P8 | |
| | | 4 | 天然記念物 | 白兔神社樹叢 | 白兔 | P9 | |
| | | 5 | 天然記念物 | 松上神社のサカキ樹林 | 松上 | P9 | |
| | ◆ | 1 | 史跡 | 天神山城跡 | 湖山町 | P27 | |
| | | 2 | 史跡 | 山ヶ鼻古墳 | 古海 | P28 | |
| | | 3 | 天然記念物 | 矢矯神社社叢 | 矢矯 | P30 | |
| | | 4 | 天然記念物 | 桂見の「二十世紀」ナシの親木 | 桂見 | P29 | |
| | | 5 | 保護文化財 | 奥田家住宅 | 猪子 | P14 | |
| | ▲ | 1 | 史跡 | 大熊段一号墳・二号墳 | 湖山町（鳥取大学構内） | P43 | |
| | | 2 | 天然記念物 | 御熊神社玄武岩柱状節理 | 御熊 | P49 | |
| | | 3 | 天然記念物 | 安蔵シャクナゲ群落 | 安蔵地内 | P47 | |
| | | 4 | 天然記念物 | 上砂見のシンペイガキ | 上砂見 | P47 | |
| | ○ | 1 | 登録有形文化財 | 加藤家住宅 | 倭文 | P11 | |
| | | 2 | 登録有形文化財 | 鳥取民藝美術館別館湖山池阿弥陀堂 | 三津 | P12 | |
| | | 3 | 登録有形文化財 | 山王日吉神社本殿 | 布勢 | P10 | |
| | 凡 例 | ★…国指定、◆…鳥取県指定、▲…鳥取市指定、○…国登録 | | | | | |

| | | No. | 指定種別 | 名称 | 所在地 | 資料編掲載頁 |
|-----|---------------|-----|-----------|---------------|--|--------|
| こと | ★ | 1 | 重要無形民俗文化財 | 因幡・但馬の麒麟獅子舞 | 賀露町、晩稲、上砂見、下味野、上味野、朝月、長柄、古海、菖蒲、西今在家、有富、高路、上原、松上、楨原、徳吉、徳尾、野坂、里仁、高住、桂見、湖山町、大畑、三山口、伏野、赤子田 | P4 |
| | | | | | | |
| | ◆ | 2 | 無形民俗文化財 | 岩坪神社獅子舞（神楽獅子） | 岩坪 | P22 |
| | | 3 | 無形民俗文化財 | 栖岸寺の双盤念仏 | 湖山町 栖岸寺 | P23 |
| | | 4 | 無形民俗文化財 | 下味野神社の麒麟獅子舞 | 下味野 | P23 |
| | | 5 | 無形民俗文化財 | 賀露神社の麒麟獅子舞 | 賀露町 | P22 |
| | | 6 | 無形民俗文化財 | 賀露神社春季祭礼行事 | 賀露町 | P24 |
| | | 7 | 無形民俗文化財 | 因幡の傘踊 | 横枕 | P22 |
| | | 8 | 民俗風習 | 湖山池の石がま漁 | 三津（三津地区石がま保存会） | P24 |
| 凡 例 | ★…国指定、◆…鳥取県指定 | | | | | |

21. 伝説の舞台となった自然

今から約1万2千年前から始まった海水面の上昇を、縄文海進と呼びますが、そのピークは約6,500～6,000年前頃です。伊和神社の隣にある巨石はこの海進の名残りと考えられているほか、桂見遺跡群などの縄文時代の遺跡は、当時の海岸線に沿って点在しています。身干山遺跡で確認された地層は、砂丘の発達を含めた地層年代の指標とされています。

湖山池は、日本海とつながった内海でしたが、湖山砂丘の発達によって内海が閉じられたことで江戸時代の頃に形成され、現在は「日本一大きな池」とされており、面積約6.88 km²、池の周囲は17.5 km、平均水深2.8 m、日本海とほぼ同じ高さの池面には五つの島があります。

この地に住む人達は、水深が浅く広大なこの池が出来た経緯を「湖山長者」という伝説で語り継いできました。

かつて池には「湖山池八宝」と言われたウナギ、コイ、フナ、セイゴ（スズキ）、ワカサギ、シラウオ、テナガエビ、ヌカエビ（ニホンイサザアミ）が生息し、池の浅い水深は周縁部に石がま漁といわれる独特の漁法を生み出しました。これは冬季にフナが石の隙間に入り込む習性を利用した漁法で、池底から石を積み上げて作られた石がまにドウカンと呼ばれる生簀を設け、石の隙間から棒で池底を突いて追い込む漁法です。この石がま漁が始まったとされる江戸時代に因幡国内の主要な街道が整備され、湖山池を作った湖山砂丘・末恒砂丘には、鳥取城から伯耆へ向かう伯耆往来が通されましたが、主要な街道とされた鹿野往来は湖山池の南側を通り、伯耆や三徳山へ向けて延びていました。

また、幕末から明治期に記された米逸処の『稲葉佳景無駄安留記』には、湖山池の優れた景色を「湖上八勝」として歌が詠まれ、描かれています。近年では、湖山池の美しさを広く知ってもらうために、市民から募集した「湖山池八景」と呼ばれる景観を楽しむことができます。

近年、池の汽水化を進め水質改善を図るなど池の環境が変化してきており、自然の摂理に逆らい天罰を受けた湖山長者の伝説が伝える教訓とともに、湖山池の自然を守り伝えていくための努力が行われています。また、この地域には豊かな自然があり、社寺の社叢や境内には、巨樹や往時の貴重な植生が残されています。

『古事記』に記載されている神話「因幡の素戔」の白兔神を祀る白兔神社樹叢とその周辺には、伝説の舞台となる自然が残ります。白兔が流されていたとされる淤岐之島、皮をはがれた兔が体を洗ったとされる御手洗池、兔が身を干したといわれる身干山等やそ



● 上空から見た湖山池

写真提供：鳥取県文化財課

の周辺の白兎海岸付近は、ハマナス自生南限地帯と共に神話の舞台として守り伝えられてきました。



● 21. 伝説の舞台となった自然 ストーリーマップ①：広域図

松上神社社叢には、祭神の松上大菩薩を粗末に扱ったことで、悪病や災害が発生したため比叡山から座主を呼んで祈願したとされる話のほか、平安時代藤原秀衡が西国巡回の際に植えたとされる秀衡杉がそびえます。また大野見宿禰命神社社叢には徳尾の森の大坊主という妖怪が出るという話が残っています。

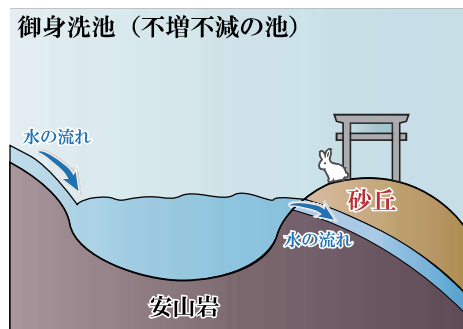
これらの社叢に残る豊かな自然は、先人たちの自然と神仏への畏敬の念が伝承と結びつき、語り継がれてきたことで守られてきたと思われまます。



● 21. 伝説の舞台となった自然 ストーリーマップ②:白兎海岸付近図

<コラム>御身洗池：因幡の白兎伝説にも伝えられる水位が変わらない池のミステリー

白兎神社境内の因幡の白兎伝説にも伝わる御身洗池は、年間を通じて水位が変わらないことから江戸時代ごろから別名「不増不減の池」と呼ばれています。火山台地にある御身洗池の底は安山岩の層で出来ており、風化してできた粘土層は水を通しにくい特性があります。また池の東の護岸を成す池のヘリの一部は鳥取砂丘の西端の砂丘層から成っており水を通すため一定以上の水は流出し、池の水位が一定に保たれます。この安山岩の粘土層と砂丘層の二つの異なる地層の地形特性が不増不減の池の仕組みだと考えられ、白兎海岸の雄大な景色と御身洗池の特殊な地形特性が古代から多くの人を魅了し、因幡の白兎のような伝説が生まれたのかもしれない。



● 不増不減の池断面イメージ図

22. 太古の人々の暮らしと祈り

まだ湖山池も含めた鳥取平野が、日本海の内海であった縄文時代には、人々は湖山池や湖山川から外洋に繰り出し、日本海の豊かな海の幸と、南側の山地から採れる山の幸によって生活していました。現在は縄文海進のピーク時より海水面は約5m低下しています。その海水面の上昇により内海になっていた鳥取平野は、弥生時代の寒冷化によって海水面が現在の高さより2m低下したことで潟湖（ラグーン地帯）が姿を現し、千代川が運び続ける砂と日本海の波と風によって、沿岸部に湖山砂丘や末恒砂丘が形成されていきました。湖山池南東岸の「桂見遺跡」から出土した全国最大級の2隻の「丸木舟」と9本の「櫂」は、湖山池内外の水面を自由に航行していた縄文人の姿を想像させてくれます。また「高住牛輪谷遺跡」・「高住井手添遺跡」からは、多量の木の実や木材のほか精緻に編まれた美しい籠が出土するなど、当時の生活文化の豊かさを物語っています。

縄文時代から弥生時代にかけて海水面が徐々に低下すると、湖山池周辺で暮らしていた人々はいち早く稲作を始め、農耕具を持って豊かな暮らしを求めて平野部の開発を進めていきます。中でも鳥取平野の中心に近いところには大規模集落である岩吉遺跡が形成され、拠点的な集落として栄えていたと考えられます。

湖山池周辺に暮らしていた弥生時代から古墳時代の人々はクニの首長の墓を丘陵上に造り、祈りを捧げました。弥生時代には湖山池が眼下に広がる丘陵上に多くのガラス製品を副葬した松原1号墓や四隅突出型墳丘墓と考えられる西桂見墳丘墓などが築かれます。古墳時代に入ると船載鏡はくさいきょうが出土した桂見2号墳を始め、多くの古墳が造られ、その中には大型の前方後円墳が築かれるようになります。山陰最古級の本高14号墳や鳥取県下でも最大級の橈間1号墳かくま、国史跡の布勢古墳などがあり、市内でも前方後円墳が密集している地域の一つです。

湖山池に浮かぶ島々は古来より祈りを捧げる場でもあり、青島からは祭祀に用いられたと考えられる「子持勾玉」が出土しています。また青島の脇に浮かぶ猫島には、昭和11年(1936)に琵琶湖の竹生島ちくぶしまから分祀された弁財天が祀られています。このほか、島ではありませんが、幕末から明治期にかけて米逸処べいいつしょによって描かれた『稲葉佳景無駄安留記』にも載っている高住の不動ヶ崎には湖山池に面した不動尊が今でも大切に祀られています。湖山池は生活文化を生み出した場でもあり、祈りを捧げる神聖な場として利用され、今も昔の姿をとどめています。



● 高住不動尊



● 桂見遺跡から出土した丸木舟

23. 鹿野往来と山あい

湖山池の南西部は、鷲峰山や毛無山から延びる尾根が急崖・断崖を形成し、谷間に砂見川・有富川・野坂川が流れ、鳥取城と鹿野城を繋ぐ鹿野往来が通っている地域です。

鹿野往来沿い山間部の入り口に位置する吉岡温泉は、応和2年(962)からの歴史を持ち、町内の宝泉寺に伝わる『吉岡温泉記』によれば娘の病の平癒を願う葦岡長者が、座光寺の薬師如来に祈願し、そのお告げによって発見されたと伝えています。葦岡長者の墓とされる葦岡長者古墳が吉岡温泉町内に残り、また座光寺も現存します。座光寺の薬師如来坐像は、因幡国司橘行平が賀露の海から発見した薬師像でしたが、帰京した行平を慕って京に飛んでいき、因幡薬師堂の本尊になったといわれています。『因幡堂縁起』（国宝）には、その顛末が描かれているほか、座光寺には飛び去った本尊のものとされる台座が残されています。葦岡長者が祈願した座光寺は、平安時代に因幡国司として着任した橘行平が建立したとされています。

また吉岡温泉は、鹿野城主亀井茲矩や鳥取藩主池田家から庇護を受けて繁栄し、江戸時代には湯治場として栄えました。宝泉寺に伝わる『吉岡温泉記』や『吉岡温泉吟詠草』から、当時の賑わいをうかがうことができます。

江戸時代に因幡国の主要な街道とされた鹿野往来沿いには、座光寺や、古代寺院の遺構で巨大な塔心礎の残る菖蒲廃寺跡があるほか、立見峠を通行する人々を見守った立見神社や鳥取城城下町中心部に住む町人たちの大半が氏子となっている聖神社等、古代から近世にかけての歴史遺産が点在していることから、古くから使われていた街道なのかもしれません。

また、鹿野往来から野坂川沿いに分け入った山間部に鎮座する松上神社では、野坂長者と言われる人物が比叡山から天台座主を招いたものの、行き違いから恨みを買う伝承が残っています。社伝によれば寛和元年(985)に天台座主が因幡国高草郡松上村の高松山の山頂に来訪し、松上三所大菩薩を合祀し、これを松上大明神としたとされています。この天台座主はこの地で入滅したとされ、阿闍梨の墓と呼ばれる五輪塔も残っています。

鳥取藩主池田光仲が願主となり、松上大明神を現在の地に移転しました。松上三所大菩薩の仏像は、神仏分離で因幡東照宮門前から現在地に移転した成就院という寺院に祭られています。慶長元年(1596)開創とされる正福寺や、寛政年間(1789～1801)に現在の地に移ってきたとされる浄源寺、江戸時代の大庄屋であった奥田家の住宅や藩医師の住宅である加藤家住宅などが残っています。

このように古代から近世にかけての歴史遺産が鹿野往来沿いに点在し、平野部から山間部へと生活の場を広げていったことがうかがえます。



● 座光寺



● 吉岡温泉記 宝泉寺蔵（市保護文化財）

写真提供：鳥取市歴史博物館



● 23. 鹿野往来と山あいストーリーマップ

24. 湖山池池畔の水上交易都市と山城

中世の湖山池はまだ日本海とつながっていたため、近江商人が湖山川に隣接する現在の布勢地区（当時は「布施」とされていました。）を拠点に、因幡と京都を日本海でつなぎ交易で繁栄していました。

そのため、因幡国の守護となった山名勝豊は天神山に城を築き、因幡国の守護所を布施に置きます。こうして守護所の機能を持つと因幡国庁に代わって約100年にわたり山名氏が因幡国を治めていく拠点になります。

天神山城は湖山池に繋がる堀で囲まれ、布施は城下町として整えられ、天神山城の鎮護神として近江国の日吉大社から勧進した山王日吉神社が置かれました。

しかし戦国時代には、天神山城は戦乱の舞台となり、永禄6年(1563)時の城主山名豊数が武田高信との戦いに敗れます。この頃、湖山・末恒砂丘の拡大により湖山池と日本海を結んでいた水路が塞がれたため港の機能が低下し、布施の町も衰退したため、山名氏は天神山城から久松山に拠点を移すことになります。この間の度重なる戦いで犠牲になった人々の御霊を弔うため、山王社地宝篋印塔が建立されています。

天正9年(1581)の羽柴秀吉による鳥取城攻めの時には、高草郡の国人吉岡将監が自ら防己尾城を築き、本拠地としていた蓑上山城から移って立て籠り、三度にわたる秀吉軍の攻撃を退けたといわれています。

現在天神山城跡や防己尾城跡周辺には、湖山池公園が整備され、市民の憩いの場となっています。



● 24. 湖山池池畔の水上交易都市と山城 ストーリーマップ



● かんぶんだいず
寛文大図 (部分)
倉田八幡宮所蔵



● 天神山城跡 (県史跡)



● 山王日吉神社 本殿 (登録有形文化財)



● 桂見付近から青島を望む

© tottori.pref.

25. 因幡の相撲と力士塚

湖山池東部の「徳尾の森」と呼ばれる丘に、現役力士も参拝に訪れる大野見宿禰命神社が鎮座しています。祭神の大野見宿禰命は、応仁天皇の命により大和国の当麻蹴速と角力（相撲の前身）を行って勝利したとされ、これが我が国で初めて行われた相撲であるとされています。その後、相撲は神事として奉納される傍ら、武士の鍛錬や実戦の訓練としても行われました。

江戸時代に入り、浪人や力自慢たちの中から相撲を職業とする人たちが現れ、全国で相撲の興行が定期的に行われるようになり、庶民の娯楽ともなりました。大名はお抱え力士を召し抱え、力士には武士の身分が与えられるようになり、鳥取藩主池田家の始祖である池田光仲も、清水五六左右門をお抱え力士としています。このほか、お抱え力士として寛永年間（1624～1644）に活躍した鎌倉十七の墓が広徳寺にあり、力士の墓（日本最古）として今なお大相撲の地方巡業の際に、角界関係者が墓参りに訪れることがあるそうです。



錦絵「芳年武者无類 野見野禰 当麻蹴速」
よしとしむしやぶるい のみのすくね
たいまのけはや
当麻蹴速 鳥取県立博物館所蔵



● 25. 因幡の相撲と力士塚 ストーリーマップ

また、因幡伯耆両国でその強さにかなうものがいなかったことから「両国」の名が与えられた両国梶之助の墓は、鳥取市の史跡に指定され、大相撲の先代両国関も参拝しています。このほか湖山出身の力士勝山芳蔵（尾車文五郎）塚や山野井鷺之助の塚など、市内には180基を超える因幡国の名力士の力士塚や墓が確認されており、今後の調査によってその数は増えていくと思われます。（市内の力士塚・墓の分布図は、資料編（別冊）に記載しています。）

因幡国の相撲人気は、当時の賀露神社では勸進相撲のほか、八朔相撲、出世相撲などと称して多くの青年力士が相撲を取っており、現在でも「赤ちゃん泣き相撲」の行事が行われています。また、湖山神社本殿の旧玉垣には明治時代の横綱大砲萬右衛門、大関荒岩亀之助（大山町出身）等4名の名が刻まれています。これらの力士は勝山芳蔵（尾車文五郎）が親方となってから育てた力士たちです。大野見宿禰命神社には昭和の横綱双葉山や琴桜が参拝記念に植樹した椿が、大事に育てられています。

また、本市の高校の相撲部が全国的な成果を上げるなど、因幡の相撲の伝統は現在まで引き継がれています。



● 両国梶之助（拡大）
錦絵「大日本大相撲勇力関取鏡」
鳥取県立博物館所蔵



● 「因州勝山芳蔵」錦絵
鳥取県立博物館所蔵



● 山野井鷺之助の塚
写真提供：鳥取市あおや郷土館



● 両国梶之助の墓
（市史跡）
写真提供：鳥取市あおや郷土館

26. 湖山砂丘の開発に挑んだ人たち

市内有数の穀倉地帯となっている鳥取平野や湖山池周辺は、砂や水との共生を図るため、様々な努力が続けられてきました。

亀井茲矩が鹿野城城主となった頃、千代川左岸の鳥取平野は、水の便が悪く畑地や荒地が広がっていたため、茲矩は河原から千代川の水を湖山、賀露に引く大規模な大井手用水を約7年かけて整備し、約千町歩の水田を生み出しました。

湖山池周辺では、米村所平よねむらしよへいが、鳥取藩の命により享保2年(1717)から湖山新川の開削に取り組みます。その後、新川の改修は昭和初期まで行われ、この事業で生じた土砂は、鳥取大学西端(崩れ岸)の古砂丘が浸食崩壊してできた低湿地の埋め立てに利用され、瀬田圃せたうらと言われる埋立地が大きく拡大しました。

また、米子の船越作左衛門ふなこしざくざえもんがこの地に移り住み、天明5年(1785)に鳥取藩に開拓を願い出て湖山砂丘の開拓事業に乗り出します。親子三代にわたり、伯耆往来沿いにクロマツの植林を続けて成功します。その後、地元農家により砂丘畑が開墾されましたが、乾燥する砂丘畑かんすいに灌水するため、浜井戸を掘り肩に桶を担ぎ散水しました。この作業は主として若嫁が担当したため「湖山の嫁ごろし」とまでいわれましたが、昭和32年(1957)にスプリンクラーによる自動散水ができるようになり、様々な農作物の栽培が可能となりました。

上山吉治うえやまよしはるは、砂丘の特性を生かしたスイカの栽培を始め、明治期の殖産事業として奨励された養蚕の技術を学び、地域の人々に普及させました。

鳥取県の二十世紀梨の栽培は、北脇永治きたわきえいじが明治37年(1904)に千葉県松戸市から手に入れた10本の苗木から始まりました。急斜面でも栽培できることから昭和8年(1933)ごろから栽培面積が増え、その後、鳥取県は全国一の二十世紀梨の産地として知られるようになりました。北脇永治によって植えられた二十世紀梨の木の直系の子孫は約1世紀経った今なお毎年「とっとり出合いの森」で花を咲かせ、枝もたわわに実をつけています。

これら砂丘開発に貢献した人々の記憶は、砂丘開拓記念碑や上山吉治翁頌徳碑によって伝わっているほか、船越作左衛門の屋号であった「大寺屋」は、地名として残っています。



● 二十世紀梨の親木
(県天然記念物)



● 砂丘干拓記念碑

27. 海上交通の港まち 「賀露」

中世に湖山池に隣接する布施を拠点として、近江商人によって行われた海洋交易は、湖山砂丘の発達によって日本海につながる航路が塞がったことで途絶え、伯耆往来が湖山砂丘地内に通されるようになりました。

江戸時代、千代川河口付近に位置する賀露は、河川交通の中継基地としての役割を担ったほか、約1年かけて大坂～北海道を往復した北前船のうち、北海道に向かう往路の寄港地となりました。その後造船技術の発達等によって、年2往復できるようになり、明治時代になってから最盛期を迎えます。

賀露の港町は、寄港した北前船を係留し荷物の上げ下ろしを行った鳥ヶ島や港町には小路のほとんどが海に通じる町割りが今もよく残っています。

賀露港を眼下に望む賀露神社は、古代より日本海航路の守護神として名を知られ、遣唐使として派遣されたものの風雨により鳥ヶ島に漂着したとされる吉備真備きびのまきびを含む5柱を祭神としており、吉備真備公を村人が賀露の地に奉曳ほうえいしたという故事にちなんだ春季祭礼行事（ホーエンヤ祭り）が、2年に一度行われています。

賀露神社には、船絵馬や北前船の模型が奉納され、廻船商人の名が刻まれた石灯籠が残されています。上小路神社かみこうじには、安芸の国尾道（現広島県尾道市）の石工製の鳥居の部材が残っており、北前船による地域間交流をうかがわせています。

現在の賀露港（鳥取港）は、鳥取県の重要港湾として整備され、近隣には鳥取砂丘コナン空港が整備されています。また、毎年11月に鳥取県の特産物である「松葉ガニ」の初セリが行われるなど、鳥取の海産物を求める人たちが賑わう港となっています。

● いんしゅうたかくさぐんからうらみなとえず
因州高草郡加露浦湊絵図
賀露神社所蔵

弘化2年(1845)に描かれたもので、賀露の港の水深や地形について細かく記載されており、江戸時代の賀露の港の状況を知るうえで貴重な資料です。

